

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 本校創立以来の教育方針である「質実剛健」「文武両道」を旨とし、自ら学び、自ら考え行動する心豊かでたくましくバランスのとれた、国際社会に貢献する人間力あふれた人材を育成する。
- 「守る伝統から創る伝統へ」のキャッチフレーズのもと、古き良き伝統を継承しながら、「グローバル・リーダーズ・ハイスクール(GLHS)」として、地域にねざしつつ積極的に国際交流活動を行い、国際感覚の育成をめざす。
 - 生徒の進路実現に向け、大学との連携等を通じて学習活動の充実を図り、コミュニケーション能力、問題解決能力、科学的思考力を育成する。
 - 生徒の自主性を重んじ、生徒会活動や部活動の活性化を図り、グローバルリーダーとしてふさわしい人格の形成をめざす。

2 中期的目標

- 進路を実現させるための学習指導の充実
 - (1)「わかる授業、力が付いたと実感できる授業」をめざした授業改善に取り組む。
 - ア 校内における研究授業や授業アンケートの結果を活用するとともに、アクティブ・ラーニングの先進校等を研究し、本校の実践に反映させる。
 - イ 校内のICT環境の整備に伴い、ICTを積極的に活用した授業改善に向けて研究を進める。
 - ウ 65分授業や少人数指導の効果を検証し、指導方法をよりよいものに改善する。
 - エ 各教科と「課題研究」との有機的な関連付けを明確にし、思考力、判断力、表現力を効果的に育成する。
 - ※ 授業アンケートにおける満足度を80%以上に定着させる。
 - ※ 畷高アンケートにおける65分授業への生徒の満足度を平成27年度までに80%以上(H26 75% H25 70%)に引き上げる。
 - (2)生徒の進路実現につながるよう、補習・講習及び個別指導の充実を図るとともに、自学自習の習慣を身に付けさせる。
 - ア 学習合宿などの実施や自習室の利用を通じて、生徒の自学自習力を伸ばす。
 - イ 大学入試の傾向及び生徒の学習状況を分析し、生徒のニーズに対応した講習・補習を実施する。
 - ※ 畷高アンケートにおける自習室の利用者を60%以上にする。(H26 50%)
 - ※ 畷高アンケートにおける「先生は質問によく答えてくれる」に対する生徒の肯定的評価を限りなく100%に近づける。(H26 97%)
- 社会に貢献する人間力あふれる人材育成
 - (1)グローバル社会のリーダーとしてふさわしい人材となるよう、基本的生活習慣及び規範意識並びに人間関係構築力の醸成を図る。
 - ア 生徒会活動、部活動のさらなる充実と活性化を図る。
 - イ 頭髪・服装・挨拶・マナー等の指導を徹底する。
 - ※ 複数の部活動における近畿大会への出場を継続させるとともに、全国大会への出場を実現する。(H25,H26 とともに5部が近畿大会出場)
 - ※ 平成27年度までに年間遅刻回数を1,000未満に減らす。(H26 1,045名 H25 1,486名 H24 1,807名)
 - (2) 社会人基礎力となるコミュニケーション能力の育成を図る。
 - ア 1年次11月の「情報プレゼンテーション大会(霜月杯)」、1年次2月の「英語暗誦大会(如月杯)」、2年次の課題研究成果発表会、SSH合同発表会など発表の機会を充実させるとともにさらなるレベルアップをめざす。
 - ※ 校外での各種コンクールへの応募数及び入賞数を毎年10名以上をめざす。
 - (3) 国際的な視野を広げ、異文化を理解するため、国際交流活動を充実させる。
 - ア 台湾、オーストラリア、ドイツ、ベトナムとの交流を充実させるとともに、大学や関係機関の協力を得ながら、国際交流キャンプやテレビ会議システムなどを活用した交流にも取り組む。
 - イ 国際共通言語としての英語が使えるようSETを導入し、TOEICやTOEFLの受験を奨励し、実用英語力の向上を図る。
 - ※平成28年度までにTOEFLiBTで60点以上が40名、80点以上を10名以上出す。
 - (4) 地元に信頼される学校づくりを推進するため、地域への貢献活動を充実させる。
 - ア 四條畷市の姉妹都市であるドイツのメアブッシュ市との交流を進め、市内の小中学校との交流も進める。
 - イ 本校のSSH事業の成果を地域に還元するとともに、部活動や学校行事等を通して地域に貢献する機会を増やす。
 - ※四條畷市内中学校からの入学者を平成28年度までに定員の10%以上(H27 5.8% H26 6.7% H25 4.4%)に増やす。
- 学校組織運営の効率化
 - (1)校長がリーダーシップを発揮し、教職員全体がチームとして学校運営への積極的な参画意識の向上を図る。
 - ア ICT推進PTが中心となって、統合ICTネットワーク、校務処理システムの活用を促進し、学校全体の校務の効率化を図る。
 - イ 畷プロジェクトチームがSSH推進PT、国際交流PT、広報PTにそれぞれ改編された趣旨を生かし、機能的かつ効率的な業務運営をめざす。
 - ウ 職員会議をはじめ各種会議が、情報共有や意見交換の場として機能し、教職員の意見が学校運営に反映できるよう活性化する。
 - ※教職員向け畷高アンケートにおいて「校長が学校運営にリーダーシップを発揮している」に対する肯定的意見を80%以上にする。(H26 74%)
 - ※教職員向け畷高アンケートにおいて「教職員の学校運営への意見反映」に対する肯定的意見を70%以上にする。(H26 41%)
 - (2)平成28年度から改善される入学者選抜の実施に向けて、効果的な広報活動を組織的に推進する。
 - ア アドミッションポリシー(求める生徒像)を教職員で共有するとともに積極的に発信し、中学校、受験生及び保護者に対して周知を図る。
 - ※ 年間5回実施している学校説明会への参加者2,000名以上を維持する(H26 2,482名 H25は2,454名)。
 - (3)一人一人の進路希望に応じた進路を実現させるため、進路指導体制を充実させる。
 - ア 「入れる大学」から「入りたい大学へ」と生徒の進路実現に向けた進路指導を徹底する。
 - ※ 第一志望現役合格率50%以上をめざす。また、京阪神3大学への合格者総数80名以上(H27 74名 H26 84名 H25 65名)を維持する。
 - イ 飯盛セミナーや大学研究室訪問などを通じて、大学や企業で活躍する社会人から学ぶ機会を増やす。
 - ウ 進路指導部の分析データを教職員全員で共有するため、教員対象の「スキルアップ研修」を定期的実施し、全教員の進路指導力を向上させる。
 - ※外部講師による「スキルアップ研修」への参加率80%以上とする。
 - (4)安全で安心して学校生活を送れるように環境を整備する。
 - ア 保護者や関係機関との連携を強化するとともに、校内の生徒相談体制をより一層充実し、支援や指導を要する生徒に対して適切な対応ができるようにする。
 - イ 地震、大雨等の災害や事故等発生時の連絡体制の徹底を図り、適切かつ円滑な対応ができるようにする。
 - ウ 障がいのある生徒が安全に安心して高校生活を送れるよう、必要な支援を行う。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔平成 年 月実施分〕	学校協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
進路を実現させるための学習指導の充実	(1)「わかる授業、力が付いたと実感できる授業」をめざした授業改善への取組み ア アクティブ・ラーニングの実践 イ ICTを活用した授業改善 ウ 65分授業や少人数指導の効果検証と指導方法の改善 エ 各教科と「課題研究」との有機的な関連付け (2)生徒の進路実現につながる補習・講習及び自習環境の充実 ア 自学自習環境の整備による自学自習力の育成 イ 大学入試及び生徒のニーズに対応した講習・補習の実施	(1) ア アクティブ・ラーニングに関する外部講師を招いての研修会及び授業の実践 イ タブレット型PC及び電子黒板を使った授業の導入 ウ 65分授業及び少人数授業における指導方法の研究を行い、授業改善につなげる。 エ 生徒の課題研究テーマに応じた教員の指導体制の充実を図る。 (2) ア 1年生全員を対象に学習合宿（7月淡路島）を実施するとともに、自習室の利用率を向上させる。 イ 土曜補習の計画的実施と志望校別講習や個別添削指導の充実を図る。	(1) ア 授業アンケートにおける授業に対する満足度の平均が85%以上（H26 85%）。 イ 教員全員がICT機器を使った授業を1回以上実施。 ウ 畷高アンケートでの65分授業に対する生徒満足度が80%以上（H26 75%）。 エ 課題研究の校外での発表会で10本以上（H26 12本）。 (2) ア 自習室の利用者数が全校生徒の60%以上（H26は51%）。 イ 土曜講習年間15回以上実施。（H26は 12回実施）	
	(1)基本的生活習慣及び規範意識並びに人間関係構築力の醸成 ア 生徒会活動、部活動のさらなる充実と活性化 イ 頭髪・服装・挨拶・マナー等の指導の徹底 ウ 校内美化活動の充実 エ 人権意識の向上 (2)社会人基礎力となるコミュニケーション能力の育成 ア 発表の機会の充実とレベルアップ (3)国際交流活動の充実 ア 台湾、オーストラリア、ドイツ及びベトナムとの交流の充実 イ SETを導入による実用英語力の向上 (4)地域貢献活動の充実 ア ドイツのメアブッシュ市及び四條畷市内の小中学校との交流推進 イ SSH事業及び部活動や学校行事等を通じた地域交流	(1) ア 新入生歓迎会や日々の活動を通して生徒会活動や部活動の魅力を生徒に伝え、さらに充実した生徒会および部活動にする。 イ 全教員による登校時の指導を通じて、挨拶や交通マナー、遅刻の防止の徹底を図る。 ウ 校内清掃及びゴミの減量・分別の徹底を図る。 エ 人権HRをはじめ、教育活動全体において、生徒の人権意識の向上を図る。 (2) ア 「情報プレゼンテーション大会（霜月杯）」、「英語暗誦大会（如月杯）」をはじめ校内での発表の機会を充実させるとともに、校外での発表会への参加での入賞をめざす。 (3) ア 国際交流キャンプ、台湾への海外修学旅行、オーストラリア研修、ドイツエネルギー研修、ベトナムボランティアツアーの実施及びテレビ会議システムによる交流を行う。 イ TOEFL仕様の授業を文理学科1年生全員対象に週2単位実施するとともに、TOEFL-iBT講座を希望者40名対象に実施する。 (4) ア メアブッシュ市とのネット交流に四條畷市内の小中学校も参加し、交流を広げる。 イ 生徒、教員の地域行事への参加、地域の方の本校の行事への参加を積極的に推進する。	(1) ア 畷高アンケートにおいて、「生徒会活動への積極的な活動」を70%（H26は56%）にする。部活動への加入率90%を維持する。 イ 遅刻回数を前年度より10%減らす。（H26 1,045名） ウ 畷高アンケートにおいて、環境問題への意識に対する肯定的評価を80%以上にする。（H26 59%） エ 畷高アンケートにおいて、「人権・生命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会が多いか」に対する肯定的回答を80%以上にする。（H26 69%） (2) ア 校外でのコンテスト等への入賞10件以上（H26は8件）。 (3) ア 畷高アンケートにおける生徒の国際交流への満足度が90%以上（H26 87%）。 イ TOEFLiBTチャレンジ講座40名の受講と60点以上10名（H26 1名）をめざす。 (4) ア メアブッシュ市ギムナジウムとのテレビ会議による交流を月1回以上実施。 ア、イ 四條畷市内中学校からの入学者数を定員の8%以上をめざす。（H27 5.8% H26 6.7%）	

学校組織運営の効率化	(1) 教職員の学校経営への参画意識の向上 ア ICT 活用による業務の効率化 イ 新たなPT による機能的な業務運営 ウ 職員会議等の活性化	(1) ア、イ 新設した ICT 推進 PT、SSH 推進 PT、国際交流 PT、広報 PT が既存の分掌・学年と連携を取り、学校全体の校務の効率化を図る。 ウ 職員会議や各種会議の活性化を図り、学校の現状と課題の共有化を図るとともに、教職員の学校運営への参画意識を高める。	(1) ア、イ 畷高アンケートにおいて、「教職員の意見反映」に対する肯定的評価が 60%以上（H26 41%）。 ウ 畷高アンケートにおいて、「職員会議や各種会議が有効に機能している」に対する肯定的評価が 60%以上（H26 35%）	
	(2)組織的な広報活動 ア アドミッションポリシーの共有と発信 イ 保護者・生徒等への情報発信の充実	(2) ア 校内や校外における学校説明会等や学校 HP を通じて、アドミッションポリシーをはじめ本校の取組みを積極的に発信する。 イ 学校HP・メルマガなどによる情報発信の充実	(2) ア 学校説明会への参加者数 2,000 名以上を維持する。(H26 2,482 名) イ 学校HP の更新回数 150 回以上。(H26 118 回)	
	(3)一人一人の進路希望に応じた進路実現のための進路指導体制の充実 ア 「入れる大学」から「入りたい大学へ」に向けた進路指導の徹底 イ 社会人から学ぶ機会の充実 ウ 教員対象のスキルアップ研修による全教員の進路指導力の向上	(3) ア 生徒及び保護者に対する進路説明会の充実と大学キャンパスツアーを実施する。 イ 卒業生や社会人を講師として招へる飯盛セミナーや大学の研究室訪問を実施する。 ウ スキルアップ研修を年 3 回実施し、最新の進路情報の共有と進路指導のノウハウを学ぶ。	(3) ア 京阪神 3 大学の現役合格 50 名以上（H27 41 名）、既卒者を含めて 80 名以上（H27 74 名）。 イ 畷高アンケートによる「飯盛セミナー及び研究室訪問の満足度」が 85%以上（H26 82%） ウ スキルアップ研修への参加率 90%以上。(H26 87%)	
	(4)安全で安心な学校生活への環境整備 ア 保護者や関係機関との連携強化とともに、校内の生徒相談体制の充実 イ 災害や事故等発生時の連絡体制の徹底と円滑な対応 ウ 視覚障がいのある生徒への対応	(4) ア スクールカウンセラーによる生徒、保護者、教員の相談を月 1 回以上実施するとともに、ストレスマネジメントに関する講演会を開催する。 イ 防災訓練の定期実施とともに、授業において防災に関する教育を導入する。 ウ 通学路及び校内の安全確保のため、点字ブロックや点字案内板などの設置及び障害物の除去などを行う。	(4) ア 畷高アンケートにおける教育相談に関する保護者の肯定的回答が 80%以上（H26 75%）。 畷高アンケートにおける生徒のストレス対処法に対する肯定的評価が 80%以上（H26 63%） イ、ウ 畷高アンケートにおいて、保護者の「事故防止に配慮し、学校施設・設備の点検を行っている」に対する肯定的評価が 90%以上。(H26 85%)	